

～ 会派の活動を報告します ～

政友会

当会派は4月12日、古河市と株式会社デイトナ・インターナショナルの包括連携協定の締結によりできた市内初のコミュニティ型 coworking スペース^(※)「& FREAK. (アンドフリーク)」を視察しました。

さまざまなライフスタイルの提案による地方創生の重要性を

※ coworking スペース…個人事業者等がオフィスの基本設備を共有しながら仕事をする場所

再確認し、今後も強く推進すべきと感じました。

また同日、令和3年度「市長と語ろうまちづくり」の資料を基に執行部の説明を受け、意見交換をしました。宇都宮線沿線の久喜市、小山市との比較でしたが、どの市も人口が減少しています。古河市が発展するためには、沿線での存在感を高め、選ばれる都市を目指す必要性を感じました。

今後も会派内にて市政について勉強会を開催し、提言をしていきます。



& FREAK. を訪問

古河市公明党

古河市公明党は5月12日、今年度事業の中から会派として推進をした次の5事業について、担当部局との意見交換を行いました。(1) 重層的支援体制整備事業(新規)。(2) 道路等破損通報システム(新規)。(3) フレイル予防の一体的実施事業(拡充)。(4) 危険ブロック塀撤去

補助事業(継続)。(5) 雑誌スポンサー制度(新規)。

市は重層的支援体制整備事業について、複雑化・複合化した問題を抱える対象者を包括的に支援するため、「高齢・介護」、「障がい」、「子ども・子育て」、「生活困窮」の各分野の支援機関や庁内関係各課が「縦割り」ではなく、担当課の枠組みを超えて連携・協働し、「多機関協働事業」の中で対象者一人

一人のニーズに応じた「支援プラン」を検討するとしており、今後の事業の推進に期待しています。



担当部局と意見交換する古河市公明党

真政会

真政会では、全国に1,194駅が設置されている「道の駅」の現況と課題について調査すべく、6月22日に筑西市、下野市、五霞町そして当市の「まぐらがの里こが」へ行き、研修した。

道の駅は、ドライバー等が利用できる休憩機能、情報を提供する情報発信機能、地域づくり

を行う地域連携機能の3つの機能が基本となっている。制度創設から20年の間に道路利用者へのサービス提供の場から、地域の拠点機能の強化とネットワーク化を重視し、道の駅自体が目的となってきたようである。特産物や観光資源を生かし、人を呼び、地域に仕事を生み出す核へと変化した。

都市間競争の場と化した道の駅事業をもう一段レベルアップ

するため、当市の道の駅事業も創意工夫を施し変化させるとともに、経営基盤強化のためにも運営方法、経営方法の見直しを検討すべきと思われる。

